# 教区新報 HOYOG

発行所 浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
（本願寺神戸別院内）
電話 神戸(078)341—5949(代)
〔編集〕教区基推委広報部

1991. 3. 44号


# 雪の城崎で総代研修

## 悩みを語り、親睦を深めた九十一人

今回で三回目となった兵庫教区門徒総代会一泊研修会が、去る二月二十一日、二十二日の両日城崎町のホテルブルーきのさきを会場に九十一人の参加で開催された。

折からの一ヵ月遅れの寒波襲来で外は吹雪でしたが、それだけに温泉の湯は冷えきった総代さんたちの体と心をいっそう温めたようでした。

講師は大阪教区の都呂須孝文師（連研中央講師）で『門徒総代の役割と責務』（総代としての使命の自覚）というテーマのもと〝法を聞く場としての寺院の機能を一層発揮するためにどうすればよいか〟〝総代としての悩みと望むこと〟〝総代として今、何をすべきか〟の三つの問題提起があり、その後八班に分かれ分科会をおこなった。

分科会発表では、お寺のお参りの数が年々少なくなり淋しい思いをするが、どうすれば多くのお参りがあるようになるか、また若い人が参ってくれるか。

時代にあった住職や坊守の有り方、住職さんと総代とのつながりに関する悩み。もっと真宗の荘厳や作法を勉強したい。寺院護持や営繕と財政の問題などさまざま意見が発表された。

これらの意見を取りまとめたり、全体を通しての司会、進行は教区基推委研修指導員部会の応供乗生師（城崎組清蓮寺）が担当された。

また、この研修会は親睦を深める意味合いもあり、一日目の夜の夕食懇親会はのど自慢、おどり自慢なども出て会を盛り上げた。中には昼間の研修と同じく熱心に日頃の活動の悩みを打ちあけあう姿もみられた。

お世話役の事務局は少々盛り上がり過ぎたのか、からになったお銚子を横目に経費オーバーを気にしながら汗だくのようすだった。

年に一度の総代会の一泊研修会を終え、ある総代さんが「住職さんと力をあわせて、おみのりを広く伝えていきたい」と言われていたように、総代さん一人一人がやる気、意気込など、それぞれの所属寺での活躍を期して雪のふる城崎をあとにされた。

熱心に研修を受ける総代さん

吹雪が窓外を荒れ狂っている。小雀が窓辺に避難して群れ固まっている。そっと開けてみると一瞬にして飛び立ち鐘楼に移る◆避難の連続。湾岸戦争の避難民を連想した。戦争で一番の犠牲者は誰なのか、家を失い職を失い、食べる物も着る物もなく逃げまどう大衆。一握りの間違った指導者のために◆朝起きる。よく休めたなぁ、不思議な力が湧き、活力が出て来たようだ、今日も一日元気で勤めさせてもらおう。そんなに思う時、仏恩が身に浸みて「お蔭様」と感じる◆「おじいちゃん。まんまんちゃんのご飯」と三才になったばかりの孫娘が私を誘う「ハイ」と答える。冷たい廊下を孫と二人踏みしめて歩く「ナマンダブ。ナマンダブ」と回らぬ口で称えながら先導する。孫娘の両手に一幅の御仏飯が捧げられている。この背を眺めながら、目を細める私◆いつもの平和な朝。平和な寺。平和な日本。この平和をいつまでも守りたい。南無阿弥陀仏……。

（藤長正博）



## 教区だより 3・4月

13日(水)
常備会 10時半
13日(水)～14日(木)
仏婦幹部研修会 本山
14日(木)
教区選挙管理委員会 3時
14日(木)～16日(土)
別院常例 窪田正憲師（掛竜西組源徳寺） 1時半
15日(金)
研修読本作成部会 10時半
保育近畿ブロック連絡協議会 和歌山
20日(水)～22日(金)
別院彼岸会 久堀弘義師（神戸湊組行願寺） 1時半
23日(土)～24日(日)
寺院子弟研修会
24日(日)～27日(水)
教区スキーツアー 志賀高原
25日(月)
連研研究会 10時半
26日(火)
第三期寺族婦人連続学習会 姫路中組光源寺 10時
27日(水)
教区会 10時半
28日(木)
組長会 10時半
29日(金)
近畿寺青年野球大会 和歌山
4月1日(月)～2日(火)
少年連盟仏の子供全国大会（教区バスツアー） 忍者村・本山
6日(土)
第一土曜仏教講座 利井明弘師（行信教校々長） 1時半
7日(日)
仏婦定例 村井丹師（高砂組蓮教寺） 1時半
14日(日)～16日(火)
別院常例 藤田真哲師（神明組慈照寺） 1時半
17日(水)～18日(木)
仏婦総連盟総会 本山
21日(日)
仏壮常任理事会 10時半 理事会 2時
27日(土)～28日(日)
ブロック青年教化連絡協議会 滋賀
28日(日)
全国門徒推進員の集い 本山

# 少年連盟、宮崎と交流
## 隠れ念仏に目頭が熱く

二月十九日に兵庫教区少年連盟と宮崎教区少年連盟の役員、スタッフの交流協議会が宮崎で開催された。

初めての試みとなったこの協議会には前日の夜八時に六甲アイランドより二十人の兵庫教区のスタッフがフェリーに乗船しました。

十九日の午後に宮崎のスタッフ十七人と宮崎教務所で協議会、終了後市内に宿泊し、翌日の二十日は隠れ念仏を見学して宮崎空港より飛行機で午後六時に大阪着の日程でした。

参加されたスタッフの感想を聞きました。

◇藤本英孝さん（神戸西組正覚寺）は、「交流協議会は形式にとらわれず、活発なディスカッションとなり、和気あいあいと誰もが参加できる場づくりなど、短い期間ではありましたが、大きな宝物を持ちかえらせていただいた思いです。」

◇山田美和さん（加古川組西福寺）は、「協議会の後、市内のホテルで親睦会があり、昼間とは打って変わって、打ち解けた楽しい話となり、時間の過ぎるのも忘れる程でした。翌日の隠れ念仏巡りでは、安楽寺のご住職より当時の話を聞き、念仏者のご苦労が偲ばれ、目頭が熱くなりました。

私たちは平和な生活に恵まれ、誰はばかることなくお念仏を称えられる幸せや、生かされる命の大切さなど深く考えさせられました。

初めての県外研修で少し緊張しましたが、宮崎教区の皆さんの暖かい出迎えとおもてなしをいただき、参加して本当によかったと思いました。」

◇連盟副委員長の楠哲雄さん（赤穂南組永応寺）は、「両教区少年連盟の単位登録とスタッフ分布図を見比べて、宮崎は九組九十カ寺で二十単位、スタッフ二十名。兵庫は三十九組七百七十四カ寺で六十六単位、スタッフ二十名で兵庫の少なさを淋しく思いました。また、予算額も兵庫の方が少なく驚きました。せめて、各組に一人でもスタッフができてくるよう願っています。

もう一つの驚きは、『戸隠』の釜上げうどんにのおいしさに感激、ついおかわりしました。自坊にもお土産にもって帰ったところ皆、満足。宮崎に行かれた時はぜひに。」

狭い念仏洞を見学のスタッフ

**生前のご苦労を偲び謹んんで敬弔の意を表します。**（敬称略）

阪神北組称名寺衆徒
「稱名院釋正見」 浅井 正見 2月13日 43才
網干組永念寺衆徒
「顕信院釋良人」 伊東 良人 3月2日 83才

## 五月十九日 仏壮大会

教区仏壮連盟の第十七回総会、姫路・西播大会が来る五月十九日、日曜日に竜野市民会館で開催されます。

記念講師は堀川病院医師の早川一光師、参加人数は九百人、参加費は弁当代を含んで一人二千円、参加希望者は各組の仏壮理事に参加費を添えて四月二十日までに申し込み下さい。

日程としては十時半開会式、総会、午後アトラクション、基調講演、体験発表があり四時前解散の予定。

その他詳細については教務所仏壮事務局まで。

## 「法」を配って下さい

先月号と一緒に発行の「お彼岸号」の残部がまだありますので、ご利用の方は教務所までお申し込み下さい。料金は一部十五円で百部以上は題字の横に寺号を印刷します。

（事務局）

# 「念仏者の生死観」

## ビハーラ研修で梯 師が講義と助言

ビハーラ研修会が神戸別院の本堂を満堂にして去る二月十三日に開催された。

基調講義は梯 実圓師（本山教学研究所教授）が『念仏者の生死観』と題して釈尊・法然上人・親鸞聖人の生死観を通して自らの老いを克服し、肯定できる人生を話された。

講演に先立ち教区のビハーラ推進部会を代表して宮里哲秀師（神明組真宗寺）が、「現在ほとんどの人が病院に入院し死を迎えるが、その大半の人が『家に帰りたい』と最後に話される。病院では肉体をいやすことはできても、心をいやすことはできないのでしょうか。ビハーラ活動を通して死を前にした人達に何とかアプローチしていきたい」と問題提起をされた。

### 各地の活動

講演後の質問は。

◇生体肝移植や臓器移植等が投げ掛ける脳死の問題について。

◇親の背中さえさすったことのないこの私が、ビハーラ活動を身近にどのように実践すればよいか。

◇本願寺の現在のビハーラのあり方を具体例でお教え下さい。

これらの質問に対して梯師は次のように答えられた。

ビハーラ活動は各地で実践されておりますが、それぞれの地域によって特色があります。福井県では、病院の患者さんの介護などを中心にしたターミナルケアが。大阪では岸和田の病院でお年寄りの方々にご法話を聞いてもらったり介護をしたりしています。

三次（広島県）に今度、本願寺のお坊さんが「ビハーラ花の里病院」をつくりまして、この病院専門のお坊さんを中心に活動している。

奈良県では特別擁護老人ホームで、滋賀県は滋賀大学の医学部（第一外科）の先生とタイアップして、患者さんというよりも、末期癌の患者さんを持つ家族の方々の支えとなる活動をしているようです。

このように具体的には地域によって活動のしかたはまちまちですが、『誰でも、いつでも、何処ででも』できるビハーラ活動を目指していきたいと思っておりますので、なにも病院や施設でなくても、どこでもつらい立場にある人達と連帯していきたいと思います。

何も患者さんばかりでなく、たとえば老人性痴呆症の患者をかかえて、家族そのものがくたくたになられている場合もあるでしょう、あるいはターミナルケアを必要とする患者さんを見ておられる看護婦さんが、燃え尽き症候群と言われるような心身症にかかっておられる方もあられます。

そのような方々とも連帯をとっていこうとの動きをしているわけです。必ずしも焦点をしぼっているわけではありません。

生体肝移植や臓器移植、脳死の問題は大変大きな問題ですが、脳死を固体死とみるかどうかの問題、脳死状況において心臓あるいは肝臓その他の臓器の移植が認められるかどうかの問題、生体肝移植の是非の問題とがありますが。

### 脳死と移植

私は、脳死とは何かの問題。脳死が正確に判定できるのか問題がありますが、脳死が正確に判定された場合は、その脳死を固体死と認められると思います。

なぜならば、脳は人間にとって統合機能であって、他の臓器とは質の違ったものを持っている、人格というものの統合機能を司どっているので、脳が完全に死ねばそれは固体の死であると見てよいと思います。

その脳死の状況にあって正当な手続きを経て、これは重要であり微妙でありますが、正当な手続きを経ての臓器移植は認められてよいと思います。

むしろ、生体肝移植の方が問題が多いであろうと思います。生体肝移植の場合は、その肝臓を提供するドナーの方が健康体であることの問題があります。

ただ、現在行われている生体肝移植は緊急避難として行われているのでしょうが、ずいぶん危険な場合もあり得ます。

一生涯にわたって免疫反応を抑制する免疫抑制剤を続けなくてはなりません、その薬を続ければ当然として感染症にかかりやすい状況になります。そういうことが正確に認識される必要もあるでしょう。

### 移植の主体

臓器移植をする時の主体は誰かというと、どこまでもそれは臓器提供者です。

臓器提供者が純粋な慈悲の行為として自発的な行為であります。もちろん脳死になる前に意思表示をしている場合ですが。

しかし、いくら本人が意思表示しても家族が認めない時はだめでしょう。死というのは本人の死であると同時に家族にとっても死であるとの認識がないと、家族の痛みの、悲嘆の癒しにマイナスの結果となることがあってはならないでしょう。

よほど正確な配慮があった上でなされないと、臓器移植は危険な要素をもっていますので、それら全てがクリアされてからの臓器移植なら私は認めてもよいと思います。

講演する梯実圓師

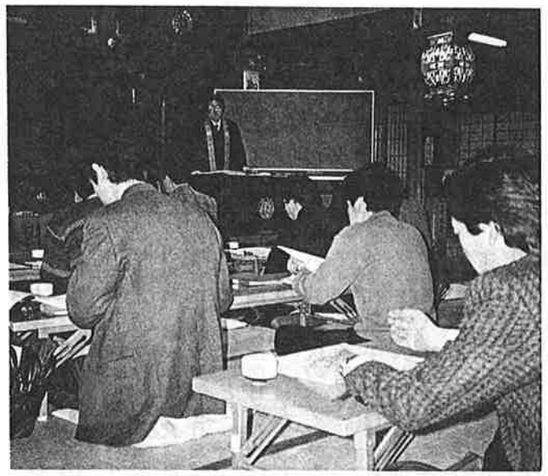


# 教区基推委の課題

## HO日誌

◆2月5日＝組長会。神戸別院復興建設計画案などについて協議された◆6日＝神戸中組同朋講座を西方寺で開催。教区派遣講師は杉本昭典師◆北摂組同朋講座を正行寺。派遣講師は藤野昌俊師◆7日＝寺族婦人連続学習会の打合せ会◆豊原大潤元総長の住職五十周年祝賀会を三宮ターミナルホテルで開催。教務所長も出席◆別院仏婦定例。講師は広岡正義師◆署名運動中央決起集会を京都会館第2ホールで開催。講演はアムネスティの日本での代表者でもあるイーデスハンソンさんでした。その講演の中で「世界には民族差別や宗教差別など様々な差別がありますが、日本の部落差別はそれらと比べて異質であり、根の深いものであると日本へ来て驚かされました」と差別のない社会の必要性を力説されました◆如月忌法要を本山で◆12日＝教区基推委・組相談員研修会並びに基推委専門委員会。午前中は田中郁朗中央相談員より組基推委運営に当たる組相談員の任務などの講義と話し合い。午後は三専門委員会に分かれての分科会と全体会。分科会の発表された内容は▽伝道教化専門委員会。連研の目的である門徒推進員養成の再確認、推進員に組での活動の場が与えられていない、研修読本の活用を推進する、専門委の名称と部会の見直しなど区令の改定も検討しては▽同朋運動推進専門委員会。教区内の差別問題の現況と今後の方向のなかで、混乱を避けるために終結したはずであるが、該当組においては問題が山積みであり、この専門委員会で協議会を開き取り組んでいきたい▽社会福祉専門委員会。教区における福祉の現状を調査中であるが、どこまでが福祉であるか不明確である、民生委員や保護司などで会合を開く必要があるのでは。

◆13日＝第三回ビハーラ研修会（別記）◆第三回寺族婦人連続学習会。午後は本堂のビハーラ研修に参加◆14日＝都市開教公開講演会を岡山市の江並教堂で。参加された内で半数以上のかたは、新聞オリコミでこの講演会を知って初めて教堂に来られた方々でした◆14日～16日＝別院常例。講師は藤山達郎師（神崎組乗徳寺）◆17日＝多紀組寺族婦人同朋講座を光専寺。講師は谷川弘顕師◆18日＝組織教化連絡協議会。教区相談員より「結集大会の意味するもの」との提言のあと、組織団体の活動上の反省と次年度の方向性などを協議した◆基推委常任委員会。基推委総会の協議内容について◆18日～20日＝少年連盟の宮崎教区との交流協議会に大分港に向け六甲アイランドより夜八時にフェリーで出航（別記）◆19日＝矯正教化連盟教区支部総会・研修会を姫路少年刑務所で開催◆20日＝岡山北組寺族婦人同朋講座を長泉寺。講師は川端正道師◆21日＝神戸西組住職・寺族同朋講座を顕真寺。講師は藤栄行信師◆21日～22日＝教区総代一泊研修会（別記）◆22日＝高砂組住職・寺族同朋講座を蓮教寺。講師は藤野昌俊師◆23日＝教化センター設立委員会三役会◆若婦人の集いの準備会◆24日＝第三回若婦人の集いを別院本堂に三百九十一人が参加して開催。講話のテーマは「仏の子を育てましょう」で東京築地本願寺の東久留米出張所より西川秀人師、また作法指導や仏教讃歌指導など盛りだくさんの内容でした◆25日＝近畿同推総会を京都の洛兆で◆青年僧侶の会研修会。同朋運動に関する住職の意識について西脇修師が本山実施の住職の意識調査をふまえて講演。この昭和六十二年の十二月の調査は全寺院の四分の一、二千五百五ケ寺が対象（回答率四割強）であったが、同朋運動に関して、特に差別問題に対する意識の低さを物語る結果ともなったようである。青年僧侶の参加者の関心をしめした調査の質問の中に『私たちの教団には、寺班・僧班という類聚制度がありますが、このことについて、あなたのお考えは』との結果で、「廃止すべきである」（50・6％）「存続すべき」（15・5％）「あまり気にしない」（33・1％）であり、活発な質疑もあった。結論はでないが、この「住職意識調査」の結果をふまえてさらなる分析と検討が望まれ、いかに教団に反映していくかが今後の課題であろう。また、西脇師は「事実を認識し、それが自分の問題となった時に動きとなる。社会的事実が見えない人が、どんなにご法義をしゃべってもありがたくないのでは」と参加者への願いもこめての助言であった◆26日＝兵庫教区基推委総会。専門委員会報告と第二次教区基幹運動推進基本計画大綱案、次年度計画について。平成三年度から八年度の三期六ヶ年計画の長期大綱の大きな柱としては▽教学の振興▽人材の養成▽教化態勢の確立▽社会教化の活動▽施設の設置。がうちだされている◆28日＝揖竜東組同朋講座を正覚寺。講師は西脇修師。



調査用紙に目を通す青僧会員

# 住職意識調査から